

遠城寺式
乳幼児分析の
発達検査法

九州大学小児科改訂新装版

九州大学名誉教授・久留米大学名誉教授・医学博士

遠城寺宗徳 ほか

慶應義塾大学出版会

目 次

序	1
検査表の作製まで	4
検査用具	6
検査の実際	8
〈検査用紙記入例〉	10
検査問題	11
移動運動	11
手の運動	18
基本的習慣	26
対人関係	33
発 語	40
言語理解	47
結果の処理	53
妥当性の検討	54
むすび	57

付録：検査用紙（実物見本）・絵カード・色紙

検査表の作製まで

遠城寺式分析的発達検査法は昭和33年、九州大学医学部小児科において約700名を対象として検査し、試案の数次にわたる改訂を重ね作製・発表された。

本検査法の特徴はつぎのようであった。(1)移動運動、手の運動、言語、情緒、知的発達、社会的発達の各機能を分析的に評価できる。(2)脳性小児まひ、精神薄弱などの鑑別診断ができる。(3)0才児から使用できる。(4)初診後の発達進歩の問題点を容易に把握できる。(5)折れ線グラフで患者の両親にも説明しやすい。(6)検査法が簡便で、短時間で検査できる。

本検査法は発表以来今日まで広く用いられてきたが、その後の20年間にける子どもの生活環境の変化、検査法の進歩等を取り入れて、今回全面的改訂を行なった。その概略はつぎの通りである。

移動運動、手の運動、社会的発達、言語発達に関する問題を旧版本検査表あるいは文献から選び、あるいは新しくつくってカードに書き込んだ。これらの問題を取捨選択し、試案を作成した。

すなわち、発達段階を乳児期は1ヵ月毎(12段階)、1才から1才6ヵ月までは2ヵ月毎(3段階)、1才6ヵ月から3才までは3ヵ月毎(6段階)、3才から5才は4ヵ月毎(6段階)、計27段階に分けた。この試案に取り上げられた問題数は、移動運動64、手の運動51、基本的欲求48、対人関係53、発語46、理解31、計293項目であった。

第一次試案を総計1,718名について検査した(5ページの表参照)。性別は男854名、女864名であった。検査は、九州大学医学部小児科医師、中村学園大学児童学科学学生、やない小児科クリニック心理相談員、久山町乳幼児健診保健婦が行なった。検査対象者はつぎに記す福岡市・北九州市およびその近郊の幼稚園・保育園児、小児科外来・乳児検診受診者であった。

福岡市——中村学園大学附属あさひ幼稚園・西南大学附属舞鶴幼稚園・東福岡幼稚園・九州大学医学部附属病院小児科・九州中央病院小児科・浜の町病院小児科・福岡市立第一病院小児科・松

本小児科・井上小児科・やない小児科クリニック・博多保健所。
 粕屋郡——久山町乳幼児健診。
 遠賀郡——芦屋町乳幼児健診。
 北九州市——北九州市立門司乳児保育所・杉の実乳児保育園・若松乳児
 保育園。

前記293項目の各々について年齢区分毎の通過率を算出した。最終的に問題を採用する基準は、通過率が年齢とともに増加し、あるいは少なくとも下降を示さず、ある年齢区分で急激な上昇を示し、また年齢区分での通過率が原則として60～70%であるものとした。すなわち、年齢相関を示し、しかも年齢特異性の高い問題を選んだ。問題が検査しやすいこと、あるいは日常生活場面でより一般的に観察されることをも考慮した。本手引書では最終的に採用された問題の各年齢区分毎の通過率のうち、4年齢区分の通過率のみが検査法の中で示されている。

検査対象

年齢	0:0	0:1	0:2	0:3	0:4	0:5	0:6	0:7	0:8	0:9	0:10	0:11
男	11	32	40	74	33	24	68	34	21	40	33	21
女	12	31	30	63	26	24	73	32	18	25	23	35
計	23	63	70	137	59	48	141	66	39	65	56	56

1:0～1:1	1:2～1:3	1:4～1:5	1:6～1:8	1:9～1:11	2:0～2:2	2:3～2:5	2:6～2:8	2:9～2:11
68	20	28	27	27	22	27	26	36
93	41	23	27	30	23	27	26	30
161	61	51	54	57	45	54	52	66

3:0～3:3	3:4～3:7	3:8～3:11	4:0～4:3	4:4～4:7	4:8～4:11	
25	30	25	24	23	15	男総数 854
28	31	27	26	23	17	女総数 864
53	61	52	50	46	32	総 計 1,718

検査の実際

検査表は左から暦年齢、発達グラフ記入欄、検査問題と分かれており、発達グラフ及び検査問題は左から、移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解と並んでいる。各検査問題は上に行くにつれて年齢がすすみ、0ヵ月から4才7ヵ月まで測定できる（添付の見本参照）。

検査する際、まず氏名、性別、生年月日、カルテ番号、検査年月日、診断名を記入する。グラフ欄の暦年齢の線上に、検査児の年齢相当位置に点をうつ。たとえば3才0ヵ月以上、3才4ヵ月未満はすべてその中間点（この場合は3才2ヵ月）に点をうつ（10ページの記入例参照。以下同じ）。

つぎに検査法について述べる。検査児の暦年齢相当の問題から検査を始めるが、発達の遅れがみられる場合は、病歴等からみて適当と思われる段階の問題から始める。検査が合格であれば上の問題へすすみ、不合格が三つ続けば、多くの場合、それ以上検査をすすめる必要はない。下の方にも合格が三つ続けば、それ以下の検査はしなくてもよい。

このような方法で移動運動、手の運動、基本的習慣と順次検査し、合格、不合格を○×でその問題のところに記入する。

発達グラフの記入法

合格が三つ以上続いたのち不合格が三つ連続したとき、合格の一番上の検査問題に相当するところに点をうつ。もし、合格の一つ上の問題が不合格、その上が合格、そのつぎから不合格三つという場合は、連続合格の上に一つ合格を加えて、その線上に点をうつ。同様に、一つ不合格のつぎに上二つ合格、そのつぎから不合格三つという場合は、連続合格の上に二つ加えてその線上に点をうつ。

たとえば移動運動で「立ったままでくるっとまわる」まで合格が続いて「片足で2、3秒立つ」が不合格、次の「でんぐりがえしをする」が合格、その上の「幅とび」から不合格三つという場合、「片足で2、3秒立つ」を合格、「でんぐりがえしをする」を不合格とみなして、移動運動は「片足で2、3秒立つ」欄の発達グラフの2才9ヵ月と3才0ヵ月の間の線上に

点をうつ。すなわち移動運動は2才9ヵ月から2才11ヵ月（3才0ヵ月未満）の発達を示している。

このようにして、発達グラフの各点を結べば、その子どもの発達のプロフィールが一見してわかる。この線が暦年齢の点より上にあれば、発達はすぐれ、下にあればおくられていることになる。折線グラフが横に直線に近ければ全体的に発達のバランスがとれており、凸凹があったり、傾斜していれば、発達が不均衡であることを示している。

発達遅滞の程度は各々の発達領野毎に発達指数類似の計算をすることによって判定できる。たとえば3才3ヵ月児が「両足でびよんびよん跳ぶ」までできるときは、発達は2才1.5ヵ月（2才0ヵ月以上2才3ヵ月未満の中間）とみなし、 $2\text{才}1.5\text{ヵ月} / 3\text{才}3\text{ヵ月} = 65$ となる。通常3ないし4段階、暦年齢より下廻った発達段階を示すときは、病的遅滞があると考えられる。

言語理解の領域で、8生月以下に検査問題の欄が空白のところがある。この場合の評価法はつぎのようにする。たとえば8生月児が「親の話し方で感情をききわける（禁止など）」ができて「『いけません』と言うとちょっと手をひっこめる」ができないとしても、当該児は遅れているとはいえない。また「親の話し方で感情を……」ができず「『いけません』と言うと……」ができたとしても、この場合、合格と不合格を入れ換えて6ヵ月段階まで発達しているというような判定を下すには無理が生ずる。よって、この場合は6～9ヵ月の発達段階と考え、折れ線グラフの上ではその中間（7.5）に印をつける。しかし9生月児が「親の話し方で……」も「母の声と他の人の声をききわける」もできないとき、すなわち年齢に比し4～5段階以上発達が下まわるときは発達遅滞があるといえる。つまり8生月までの言語理解は、通過率を参考にして粗大な遅滞を見出すときに有意であり、2～3ヵ月程度の遅滞を判定することは困難であり慎重を要する。

検査問題

移動運動

(0:0)

問題 あおむけで、ときどき左右に首の向きをかえる。

方法 あおむけにねかせておく。頭を動かさないときは、頭部をちょっとつつくなど刺戟する。

判定 活発な動きでなくても、頭部を左右に動かせば合格。

年 齢	0:0	0:1	0:2	0:3
通過率	88.9	96.8	98.6	98.4

(0:1)

問題 腹ばいで頭をちょっとあげる。

方法 腹ばいにして腕を上にあげ頭の両側におき、顔を下につける。

判定 2～3秒でも頭をちょっともち上げるようにすれば合格。

年 齢	0:0	0:1	0:2	0:3
通過率	33.3	54.0	80.0	89.6

(0:2)

問題 あおむけにして体をおこしたとき、頭を保つ。

方法 あおむけの位置で、両手あるいは両肩を持ってひきおこすようにする。

判定 体をひきおこすにつれ、頭がだらりとあとにのこらず、頭を保って、体に対してまっすぐになるようであれば合格。

年 齢	0:1	0:2	0:3	0:4
通過率	25.4	62.9	95.2	100